

令和3年度 事業計画

特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや健康観察、事故予防、感染症対策などを実施することで、心身ともに安全で安定した生活ができるよう支援する。入所者一人ひとりのニーズや課題を明確化し、チームで対応を検討し最適なサービス提供に努める。

看取り介護についての理解を深め、「のぞみ荘で最期を迎える」という入所者や家族の意向に沿って、その人らしく人生の最後が迎えられるよう支援する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を実施し、実習生等の受入れを行う。

地域における緊急措置の必要な事例に対し関係機関と連携しながらセーフティネットの役割を果たす。

・優秀な福祉人材を育成する

職員の資質向上のため、WEB研修や外部講師の活用、委員会研修を実施する。

・人が生きる職場環境を整備する

リフトや電子記録の導入により、職場環境改善を実施する。

安定したサービスが提供できるよう募集活動の枠を広げて人材確保に努める。

会議等を見直し、情報の共有と伝える仕組みを再構築することで運営を改善する。

・安定した経営を継続する

入所者の身体の変化に早期対応することで入院日数の削減を図る。また、入所や退院のスムーズな受入れにより平均稼働率95%を目指す。

ショートステイは平均稼働率を43%に設定する。利用者確保のための情報提供や緊急事例への柔軟な対応で目標達成を目指す。

ミーティングで検討するなど職員全体でコスト意識を持ち、経費削減に努める。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止・身体拘束ゼロ・不適切ケアの防止などの権利擁護の取組を継続する。

設備の点検や防災訓練を実施し安全対策や福祉避難所としての準備に努める。

令和3年度 事業計画

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや健康観察、事故予防、感染症対策などを実施することで、心身ともに健康で入居者のペースで生活が出来るようチームで対応を検討し支援する。

看取り介護についての理解を深め、「のぞみ荘で最期を迎える」を希望する入居者や家族の意向に沿って、環境整備等も含めた対応を継続して協議し、その人らしく人生の最後が迎えられるよう支援する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を実施し、取り組みや状況を報告する運営推進会議の再開や実習生の受け入れに努める。

・優秀な福祉人材を育成する

職員の資質向上のため、WEB研修や外部講師の活用、委員会研修を実施する。

・人が生きる職場環境を整備する

電動ベッドや電子記録の導入により、生活環境改善を実施する。

安定したサービスが提供できるよう募集活動の枠を広げて人材確保に努める。

会議等を見直し、情報の共有と伝える仕組みを再構築することで運営を改善する。

・安定した経営を継続する

待機登録者確保の為、積極的に情報提供を行う。

入居者の身体の変化に早期対応することで入院日数の削減を図る。また、入居や退院のスムーズな受け入れにより平均稼働率95%を目指す。

ミーティングで検討するなど職員全体でコスト意識を持ち、経費削減に努める。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止・身体拘束ゼロ・不適切ケアの防止などの権利擁護のための取組を継続する。

設備の点検や防災訓練を実施し安全対策や福祉避難所としての準備に努める。

令和3年度 事業計画

在宅支援部
ケアハウス オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々の関わりを大切にし、相談しやすい環境づくりを行うことで安定した在宅生活の継続を支援する。感染症対策などの勉強会開催や合同行事の計画検討を行い、自立意識や健康の向上に努める。

他者との交流の機会や地域活動への参加を支援し、閉じこもり防止を実施する。

・安定した経営を継続する

こまめな声掛けや訪室で入居者の状態を把握し、関係機関や家族と情報を共有することで入院日数の削減に努める。

稼動率95%以上を目指し、入退居を円滑に進めることで空室期間の短縮に努める。

令和3年度 事業計画

在宅支援部
デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

在宅生活を継続するという視点で介護計画を作成し、利用者のニーズや生活環境に合わせたサービスを提供する。また、提供方法や環境等を工夫し楽しみにつながるプログラムを実施する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症対策を実施し実習生を受け入れる。新しい形の地域交流を実施する。

・優秀な福祉人材を育成する

法人内研修に加え、WEB研修等を活用した事業所内研修を年4回実施する。職員の力が発揮できる職場づくりをめざし効果的なミーティングを実施する。

・安定した経営を継続する

地域のケアマネジャーや関連事業所に効果的な情報提供を行い、関係を強化する。会議等で収集した情報を活用する。プログラムの見直しを行い利用者の満足度を高める。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

ひやりはっと報告を見直すことで事故対策を強化し「事故ゼロ」を継続する。不適切ケアをなくすよう取り組み法令遵守の徹底を図る。

令和3年度 事業計画

在宅支援部
オパール居宅介護支援事業所

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

入院時の情報提供及び退院連携は継続しておこなう。「興味・関心チェックシート」を活用することで利用者の意向を汲み取る手がかりを探し、ケアプランに反映させて在宅で長く生活できるように支援をする。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

新型コロナウィルス対策や地域の意向を確認しながら、職員 2~3 人参加で屋外か屋内で十分に換気をして人数を制限して運動を行うなどやり方を工夫し地域に行く活動を計画する。

・人が活きる職場環境を整備する

医療・福祉職との関係作り、事業所の資質向上のため、研修・勉強会の参加を年 10 回以上行い、事業所内でも情報交換を行う。

毎月地区の居宅が集まるケアマネ交流会や隔月で武田病院居宅と行う合同会議での研修を踏まえてオパール居宅内での研修を計画的に年 2 回程度行う。

・安定した経営を継続する

事務作業の効率を向上させながら包括支援センター、医療機関(退院支援、介護保険の申請)、老人施設(退所後の在宅支援)からの紹介や相談に柔軟に対応し稼働率 95%の維持を目標とする。

令和3年度 事業計画

在宅支援部
福田高齢者支援サブセンター

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

在宅で生活している高齢者の相談を受ける時に介護保険制度を始め、地域の社会資源など様々な情報が必要となる。ご本人やご家族がさまざまな情報の中から必要なものを選択できるようにパンフレットや新しい情報を整理することで相手に分かりやすく伝えられるように努める。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域の方たちが主体となり通いの場やサロンなどが増えている。百歳体操の実施、地域の活動をしている方との「顔の見える関係」を作るオレンジカフェの開催、これらの活動に新型コロナウイルス対策を講じて他の支援センターと連携しながら参加・協力できるように努める。

令和3年度 事業計画

在宅支援部
グループホーム ひなぎく

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

個々の状態に応じた食事の提供と、食事を楽しむために 季節感のある食材を選び、行事食の計画をする。毎月、担当者からご家族へお便りを発送し、生活の様子やニーズ把握などの情報収集を行う。日々の生活の中に、役割や楽しみを持って頂き、その人らしさがみえるケアプランの充実とサービスの提供を目指す。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域の方や包括支援センター・他事業所職員を招いての運営推進会議、実習生・認知症マイスターの受け入れ等、さまざまな関わりにより交流を持ち続けていくよう、感染症対策を講じ連絡を重ねていく。

・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修へ積極的に参加し、援助や業務の流れに活かす。管理栄養士による「食」に関する勉強会を年2回は開催し、栄養・調理・感染の知識向上を行う。2ヶ月に1度実施する身体拘束勉強会では、拘束だけでなく不適切ケアの学習や、現場で起こっているさまざまな問題を取り上げ、職員全体で取り組む。

・安定した経営を継続する

日常の状態や急変時の対応を含め、医師やご家族と情報共有を行い、入院日数の削減に努める。関係機関との連携を密にし、事前の準備と情報収集を行うことで円滑な入所を支援し、稼働率96%を目指す。

・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

ひやりはっと等を活用し、事故の減少に取り組む。また、マニュアルの改善を行うことで統一化されたケアを提供する。防災設備等の把握に努め、定期的に訓練を実施することで災害時でも落ち着いて対応できるように備える。